

向き合う



患者・市民が自らが望む「健康な生活観」や人生観を表現し、それぞれに即した医療を提供できる社会になってほしいと思いい、患者の立場から活動を続けている。

理想の医療の実現のために、私が特に期待しているのは調剤薬局と、そこで活躍している薬剤師である。

現状では市民から薬剤師へは期待の声が小さく、私が市民向けの講演で薬剤師への期待を伝えても、反応は冷めている場合が多い。薬剤師が持っている能

患医ねっと代表 鈴木 信行さん ④

力や役割が十分に理解されていないためである。

実際、調剤薬局へ行っても、市民に聞いても、薬剤師の本来の役割が見えない。さらにいえば、どの薬局へ行っても同じようにしか捉えられない。

しかし、薬剤師の存在意義は、薬剤師法第1条に示されているように「健康な生活を確保する」ことにある。

薬を用意し、その説明をするという所作は、このためのほんの一つの手段でしかない。市民は薬剤師の存在意義を理解し、自分の目指す健康な生活観、さらには大切にしていく人生観を薬剤師と共有して、実現のための理解者になってもらえばよい。薬剤師という医療的知識を持った味方が増えるのだ。

一方で、多くの薬局はそのレベルに達していないため、急に調剤薬局に行っても実現するわけではない。

そこで、これまでに紹介した

調剤薬局と薬剤師を味方に

よつに、お薬手帳へ患者や市民が様々な情報を記載することで、薬剤師の知識や経験を引き出すよつ、私たち患者側も努力する必要がある。

薬局や薬剤師の数、お薬手帳などのツール、診療報酬に守られた低価格など薬剤師の能力を生かせる条件はほぼそろっている。あとは、薬剤師と患者側がお互いに一歩ずつ踏み込み、こうした関係性を構築する勇氣と実践が求められている。

まずは、お薬手帳に、自宅にある残薬数や自分が認識している病名を書いてみよう。このよつに、薬剤師が知らない情報を提供することにより、距離は縮まるはずである。反応が薄い場合は、このコラムを薬剤師へ提示してほしい。

患者と医療者は、協働する関係である。その関係構築には両者の努力が必要であり、それにより健全な医療環境が実現するのである。(116項おわり)